

まごころだより 高松

2023年冬号
令和6年1月1日発行

発行所 NPO法人 長寿社会支援協会(まごころケアサービス 高松センター)
〒761-8052 高松市松並町802番地1 TEL 087-865-8001 FAX 087-865-8039 E-mail magokoro@hyper.ocn.ne.jp URL http://cho-jyu.info/
印刷所 株式会社成光社 〒760-0065 香川県高松市朝日町5-14-2 TEL/087-823-0222



もみじ



のぎくの花



みかん

令和6年度介護保険制度の動向

NPO法人長寿社会支援協会

会長 兼間 道子

新年明けましておめでとうございます。令和6年度介護保険制度の方向性が出ました。具体的な議論は残されていますが、内容は以下のとおりです。

・重度化しても、住み慣れた「家」で暮らしを続けられる「地域包括ケアシステム構築」充実のため訪問型サービスの充実。

・介護実績等のデータ集積と分析、加算の創設、成功報酬の導入、通所系の拡大。

・処遇改善加算の一本化(現在3本)、ICT化の促進、既存の加算修正。

・新たな複合型サービスの創設と看護小規模多機能型の役割の明確化。通所介護、訪問介護、小規模多機能型とのすみ分けがポイント。

・居宅介護支援事業所に介護支援事業所の許可を追加。予防ケアプランが地域包括での対応に加え、支援事業所でも対応。

・財務諸表の公表が介護事業所に義務化。

などです。ただし、次の論点が残されており、注視したいと思います。

・高所得者の一号保険料の引き上げ

・自己負担2割対象を、現在の20%から30%に拡大

・介護老人保健施設、介護医療院の多床室料の自己負担化
今後、後期高齢者が増大するなか、これらが確定すると利用を控える高齢者が増えるのではと推察されます。

介護現場ではなにかとご苦労が絶えないと推察します。介護サービスの提供には、なにより担い手の健康が必須です。利用者との信頼の絆が益々、増し加えられますように、ラッキーニュースに満たされる年でありますように願っています。

● 目次 ●

● 令和6年度 介護保険制度の動向	1
● 各分会だより	2
居宅介護支援	2
訪問介護	2
まごころサービス	2
有料老人ホーム あかりの里	3

防災行事シェイクアウトに参加しました	3
研修部	3
● クイズ	3
● 会員の唄	4
● 編集後記	4

■各部会だより

居宅介護支援

新年おめでとうございます。旧年中はお世話になりました。本年もよろしくお願いいたします。

さて、最近「シェアハウス」という言葉をよく耳にします。シェアハウスとは、複数人で一つの住居を共有する賃貸住宅です。個室以外の共用部分、リビング、キッチン、バスルーム、トイレなどを複数人でシェアして住むことができます。

住人同士のかかわり方について、家族のような身近な距離感が好きな人や、ある程度の距離感が欲しいという人がいますが、シェアハウスは自分専用の設備は無いけれど、みんなで共有して使うことで経費が大きく節減できるという大きなメリットがあります。

Aさん(男性)は6〜7年前から5名の高齢者の方々と生活をしていましたが、高齢者のシェアハウスならではの問題が生じてきました。一緒に生活していたメンバーが入院や介護施設への入居、また家族のもとで生活することになり、経済的な理由でシェアハウスが成り立たなくなりました。



Aさん自身も認知症状が現れ、短期記憶や尿意が曖昧となってきました。包括支援センターとも相談して一人部屋で共有の台所やトイレ、リビングルームなどがあり、これまでのシェアハウスと環境のよく似た施設で介護職員のいる有料老人ホームに入居することになりました。



これからは、デイサービスや訪問介護を利用しながら、生活することとなります。新しい年がAさんにとって良い年となることを祈ります。

訪問介護

あけましておめでとうございます。長らく私たちを悩ましてきたコロナは、昨年インフルエンザと同じ感染症5類に移行されました。勢いは弱ったとはいえ、あちらこちらで感染されたとの話を聞きます。皆さま油断せず引き続き感染対策をお願いいたします。

訪問介護の現場では、ヘルパーの高齢化が大きな課題となつています。ヘルパーさんのなかには腰が痛い、運転が危なくなつたなどと訴え、リタイヤされる方がいます。次々と若い方たちが来てくれると助かりますがなかなか難しい状況です。

しかし、心待ちにしておられる方



や、援助を必要とされる方々がおられる限り、がんばって訪問させていただきます。皆さま今年も一緒にがんばりましょう。そして新しい年に新しい仲間を呼び集めましょう。

まごころサービス

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、きつと良い新年をお迎えになられたことと存じます。

昨年は、まごころの利用者様で何人の方が転倒により入院なさいました。元気に快復され自宅に帰られた方は、介護支援を利用しながら趣味の短歌やパソコン、生け花等を楽し



まれています。

皆様、転倒をしないために、常日頃から散歩や家事など身体を動かすことを心がけ、足腰を鍛えましょう。一年の計は元日にあります。

有料老人ホーム あかりの里

もみじの見ごろもあつという間に過ぎ、冬が北風を連れて訪れてまいりました。山の麓にある「あかりの里」は緑豊かな自然の中にあります。時折サルの親子四匹が近くまでやってきて皆を楽しませ、驚かせます。



そんな田舎の有料老人ホームに勤め一年程になります。利用者さん数人がデイサービスに行かない一日を退屈しないで過ごせるよう、サポートさせて頂いています。

年齢があまり変わらない高齢者の私は、元気だけがとりえで、昔の懐かしい歌と一緒に歌ったり、椅子に腰掛けてラジオ体操をして少しでも体を動かし、いつまでも元気でいられるよう励まし合っています。

何かを一緒にする事で喜ばれたり、「ありがとう」と言ってもらえ嬉しく、また皆さまが仲良く過ごされていて、アットホームな施設だなあと思います。

コロナはだいたい終息してきましたが、インフルエンザが流行しております。利用者様はもちろん、私たち自身の体調管理もしっかりして、新しいこの一年も務めさせていただきます。(大畑節子)

防災行事「シェイクアウト」に参加しました

香川県民いっせいで地震防災行動訓練「香川県シェイクアウト」に参加しました。近い将来予想されている南海トラフ地震に備え、家庭や学校、職場などで1分間、自らの身を守る行動をする訓練です。11月2日午前

10時から行いました。身を守る3つの安全確保は、まず身を低くし、頭を守り、動かない、ことだそうです。今年のコレック項目として、家具等の転倒防止・危険個所の確認・役割分担の再確認、があげられていました。



研修部

介護福祉士実務者研修

介護福祉士国家試験に必要な介護福祉士実務者研修(通信課程)を実施しています。毎月受講生を募集中です。介護職としてのスキルアップのため挑戦してはいかがでしょうか。受講にあたっては県の支援制度があります。詳しくは下記までご連絡ください。(ラポールカレッジ)

☎ 087-815-0760

福祉有償運送運転転者講習

公共交通

機関などの利用が困難な人の移動を支援する運転手養成講習会です。修了者は、2種の運転免許がなくても運転手として活動できます。高齢化社会を迎え益々増える移動困難者の方たちに対し、サービスの担い手として期待されています。受講者を募集中です。興味、関心のある方はご連絡ください。



また、「まごころ移動サービス」も行っています。通院や買い物などでお困りの際はお声がけください。(まごころケア高松)

☎ 087-865-8001

単語パズル

次の四文字を入れて単語を作ってみましょう。 ※小文字での使用も可

く し か ん

□	□	□	□
□	□	□	□
□	□	□	□
□	□	□	□
□	□	□	□

会員の唄

居場所

小西 路

太陽光発電はくもり空では泣いているよう。最近居場所がどこかにないだろうかと思しに行きたくなってきた。

厚さが数センチしか変わらない段差模様の座ぶとんを作ってみた。

この座ぶとんが、居場所になるのだろうか。立ったり、座ったり、歩いたり、走ることは少し無理になったけど

軽いスポーツならできるかもしれない。オリーブの塩漬けを頂いた。

ペットポトルのお茶を冷やさなくてもいい季節がまたそれから寒くなってゆき

師走へと季節は過ぎてきた。

この季節が居場所となるのだろうか。昨年は夏からすぐに冬が来て、時がとても早

いかのような錯覚がある。

居場所はどこかにあるようで、どこにもないようで、

どこにもないようで、どこかにもないようで、

その気持ちになればどこかにはあるのだと思ふ。



唐渡 義一 作



単語パズルの答え

か	ん	し	・くしん
し	か	く	・かくん
し	ん	か	・かしん
し	ん	く	・くかん
か	く	し	も可です。
			ん

霊峰富士 長寿初詣で
唐後義一

鴨の舞う
湖面にゆぐぐ
さかさ富士

水鳥や
苗消しとる
さかさ富士

さかさ富士
鴨のよどり
苗消え

鴨の群れ
一瞬に消す
さかさ富士

編集後記

「樋口恵子さん老いを語る（令和4年11月10日付け朝日新聞）」という記事を先日ご利用者から見せていただきました。

その中で「びすけつと微助っ人」という言葉に出会いました。自分を含めヨタヘロ（何をすることもヨタヘロ）とする時期の世代）であつても、社会参加が出来るように「まごころ」もびすけつと微助っ人の力を全部振り絞つての一滴を介護や福祉に注いできました。動ける間は自分の持っている力を生かし支え、助けが必要になったら負い目を持たずに必要な助けを仲間から得られるシステム「タイムストック（時間貯蓄）」を思い返しました。

私も、ヨタヘロで頼りないですが、まだ「ドタリ」とはいかない。終末のときまで地域の一人として「いつでも」「どこでも」「誰にでも」関わりながら生き、感謝し、その応答として今までの微々たる経験とやらを次の世代へと繋いでいけたらと願っています。

私たちはまた新しい年を迎えることが出来ました。「平和なくして長寿なしこれは厳然たる事実です」とこの時90歳になられた樋口さんは締めくくっておられます。